

# イワシ類シラスの漁場形成の研究

## 水産資源調査・評価推進委託事業

(予算区分 受託 研究期間 1995 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所資源海洋科 鈴木 聡志

### 【研究の背景とねらい】

- ・ 静岡県ของイワシ類シラスの年間水揚金額は 30 億円を超える重要な魚種の一つです。
- ・ シラスの漁場形成要因を解明するために、水揚統計資料の収集や太平洋沿岸の卵稚仔の分布、海況変動等を把握することで、シラス漁況の変動特性を検討しました。

### 【これまでに得られた成果】

(2020 年度の状況)

- ・ 2020 年度漁期 (2020 年 3 月～2020 年 1 月) の主要 6 港 (静岡、吉田、御前崎、遠州、舞阪、新居) における総水揚量は 5,545 トンで、前年 (4,585 トン) の 120.9%、過去 5 年平均 (以下、平年) (6,131 トン) の 90.4% でした (図 1)。
- ・ 3 月の水揚量は前年、平年を上回りましたが、4 月は減少して、前年並で平年を下回りました。5 月は増加しましたが、前年、平年ともに下回りました。その後、6 月はさらに増加し、前年、平年ともに上回りましたが、7 月は減少し、平年を上回ったものの、前年は下回りました。しかし、8 月は再び増加し、前年、平年ともに上回り、今期最大となりました。9 月以降は、徐々に減少していき、9 月以外は前年を上回り、9、12 月以外は平年を下回りました (図 2)。
- ・ 魚種別の漁況は、カタクチイワシのシラスが漁期を通じて漁獲され、8 月に最も水揚量が多くなりました。マイワシのシラスは 3～6 月と 12～1 月に漁獲され、3 月に最も水揚量が多くなりました。ウルメイワシのシラスは 3～6 月と 11～1 月に漁獲され、3 月に最も水揚量が多くなりました (図 3)。
- ・ シラス漁況の 2～4 ヶ月後の予測を行うとともに、調査船による漁場加入前のシラス分布状況を調査し、これらの結果を研修にて漁業者や加工業者に広報しました (計 3 回)。

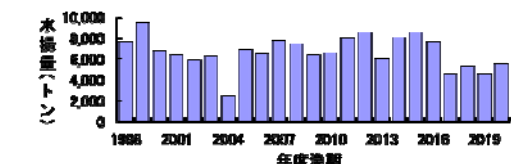


図 1 県内主要 6 港における漁期別水揚量

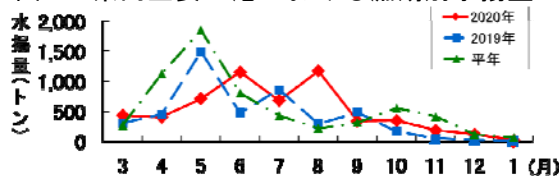


図 2 県内主要 6 港における月別水揚量の推移

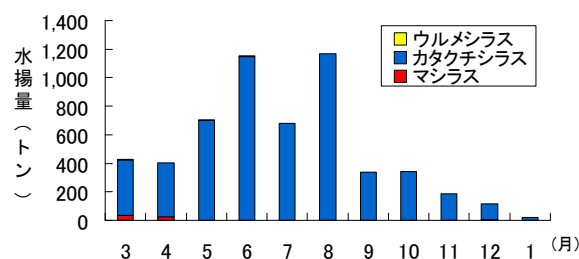


図 3 県内主要 6 港における月別魚種別水揚量の推移

### 【期待される成果】

- ・ シラス漁場形成の要因が解明され、高精度の漁況予測が可能になると、シラス漁業者は計画的な操業が、シラス加工業者は計画的な出荷が可能となります。

### 【今後の計画】

- ・ シラス漁況と卵稚仔の分布、海況変動等との関係を明らかにし、さらに漁場加入前のシラス分布調査を行うことで、シラス漁況の高精度の予測手法を確立します。

(作成 2021 年 4 月)